

製品名: LATS1/2 (リン酸化 Thr1079/1041) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05789**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	140kDa

抗原情報

遺伝子名	LATS1 WARTS
別名	Serine/threonine-protein kinase LATS1 (EC 2.7.11.1) (Large tumor suppressor homolog 1) (WARTS protein kinase) (h-warts)
遺伝子 ID	9113.0
SwissProt ID	O95835
免疫原	ヒト LATS1/2 由来の合成リン酸化（リン酸化 Thr1079/1041）

背景

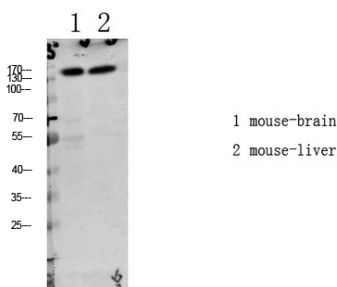
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、推定上のセリン/スレオニンキナーゼであり、有糸分裂装置に局在し、有糸分裂初期

に細胞周期制御因子 CDC2 キナーゼと複合体を形成する。このタンパク質は細胞周期依存的にリン酸化され、前期後期のリン酸化は中期まで持続する。このタンパク質の N 末端領域は CDC2 と結合して複合体を形成し、H1 ヒストンキナーゼ活性が低下することから、CDC2/サイクリン A の負の調節因子としての役割が示唆される。さらに、C 末端キナーゼドメインは自身の N 末端領域に結合することから、分子内結合を介して複合体形成を阻害することで負の調節能を発揮する可能性が示唆される。生化学的および遺伝学的データから、腫瘍抑制因子としての役割が示唆されている。これは、ノックアウト マウスで軟部肉腫、卵巣間質細胞腫瘍の発生、および発癌性治療に対する高い感受性を示した研究によって裏付けられています。触媒活性ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子:マグネシウム。機能:有糸分裂の進行と G1 四倍体チェックポイントの両方に作用することにより、倍数性の維持に重要な役割を果たす腫瘍抑制因子。CDC2 キナーゼ活性を下方制御することにより、G2/M 遷移を負に制御します。p53 発現の制御に関与します。LIMK1 の負の調整を介してアクチン重合を制御することで、細胞質分裂に影響を及ぼします。内分泌機能にも関与している可能性があります。PTM:自己リン酸化され、細胞周期の M 期にリン酸化されます。STK3 によって Ser-909 および Thr-1079 がリン酸化され、活性化されます。DNA が損傷すると (おそらく ATM または ATR によって) リン酸化されます。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性:AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含みます。類似性:タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含みます。類似性:UBA ドメインを 1 つ含みます。細胞内局在:間期を通して中心体に局在しますが、有糸分裂中は紡錘体極体、有糸分裂紡錘体、および中間体を含む有糸分裂装置に移動する。サブユニット:有糸分裂初期に CDC2 と複合体を形成します。LATS1 関連の CDC2 には有糸分裂サイクリンパートナーがなく、明らかなキナーゼ活性はありません。リン酸化 ZYX に結合し、このタンパク質を有糸分裂紡錘体に局在させることで、有糸分裂中のアクチン調節タンパク質の役割を示唆しています。細胞質分裂中にアクチンミオシン収縮環で LIMK1 に結合し、共局在する。組織特異性:肺と腎臓を除くすべての成人組織で発現する。

研究分野

-

画像データ



各種溶解液のウェスタンブロット分析。抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。